うぬぼれは危険だ 厳しい今後の闘い

63日スト後に残した問題

支部長座談会

十年一昔といわれるが、この一昔を歩いて来た三鉱労組の足跡を静かに振返ってみると、まさに闘いの連続であり、躍進期でもある。十週年に当り編集部では「闘いの猛者」に各支部から集り座談会を開いて、いろいろ人物を物色したがなかなか選定が出来ず困り果てていたところ大きな誤算をしていた、それは支部長だ。各支部長は闘いの猛者にふさわしい闘いの中に育つた労働運動のベテランとして少しも恥かしくない歴々だ。編集部では早速各支部長に御集りを願い久保田副組合長の司会で主として六十三日スト以降の思い出について、座談会を催した。

司会　十周年記念特集号を発行しようと思つて、心配したですが、分けた。寒いのでみんな炭火をするにあたり、三池の十年をかえりみるとき幾多の想い出が去来しますが、組合の揺らん期ともいらべき組合創立当時については歴代組合長座談会で述べてありますので、鹿和条約締結以後の組合運動の推進過程を中心に六十三日のスト、炭婦協結成、一二三日の首切反対闘争など、いまだに生々しい想い出が脳裡に刻まれていますが、本日はこれを想い起して、思い切り放談して下さい。では最初は六十三日のストから入りましようか。

野方　とにかく保安要員総引上げの指令が出て、会社も緊張してこの対策を講じてるし組合も緊張した。いよいよ夕方からピケを張ることになつたが、はじめてのピケでどういう風に組んでよいか判らないで逃いましたね。

一応割振りして部署についてもらい、まわつてみたが、当日は寒くて寒冒の方では二かたまりになりたむろし恰好だけはノンキそうだが、みんな緊張していた。寒冒でも不安そうな顔をみんなしていた。

ピケの最後ごろ、会社は地ならしローラを持つて来るというので私は全員を反対に向けピケを張らせローラの来る方に私が坐りこんだまさかひき殺しはすまいと思つたが、若し本当にローラが来たらどうしようもないとは思つたが、集団社宅の大割位は集つたと思つたですね。

塚元　大体あのとき考えてみると五千人である。

闘いに敗れた三鉱は、翌々年新入炭鉱を買い、二年後鯰田炭鉱、そして飯塚と筑豊沿線の炭鉱を手に入れ、ここに三井対三鉱の石炭界におけるシーソーゲームが始まつたのである。

野方支部長

久保田副組合長

浦野　当日は支部委員会をやり保安要員総引上げが合法か非合法かで大もめにもめ、支部始まつて以来の記名投票にまで発展した。ピケ隊を四隊に分け、一隊を三組に分けた。寒いのでみんな炭火を

谷端　立入禁止の掲示が出たときには家内連中が動揺しだしたナすぐ連絡が来た。立入禁止には執行部や地域分会長の名前が出ている。「俺たちゃ、ドゲンかなるじゃろか、ドゲンなつてもかまうか、ここまで来たから」そういつてそれを見ながら中に入つていた。いよいよピケを張ることになつたが、どうして張るかということになつた。スクラムを組むということは薄々知つていたが、こういう研究した。結局、半分に分けて門に坐らせ半数は待機させることにしたそうしているうちに時間になつたら続々と地域分会から仲間が来た実際立入禁止の札は立つ、職組は中に入つている、警察が出る噂は立つで、果して集つて来るかを心配していた。それが時間になつたらどうです。隊を組み整々とやつて来た。これを見たときには感激し、大丈夫、絶対ピケは敗れないと思つたですね。

谷端支部長

ピケを知らなかったピケ隊

谷端　立入禁止の掲示が出たときには家内連中が動揺しだしたナすぐ連絡が来た。立入禁止には執行部や地域分会長の名前が出ている。「俺たちゃ、ドゲンかなるじゃろか、ドゲンなつてもかまうか、ここまで来たから」そういつてそれを見ながら中に入つていた。いよいよピケを張ることになつたが、どうして張るかということになつた。スクラムを組むということは薄々知つていたが、こういう研究した。結局、半分に分けて門に坐らせ半数は待機させることにしたそうしているうちに時間になつたら続々と地域分会から仲間が来た実際立入禁止の札は立つ、職組は中に入つている、警察が出る噂は立つで、果して集つて来るかを心配していた。それが時間になつたらどうです。隊を組み整々とやつて来た。これを見たときには感激し、大丈夫、絶対ピケは敗れないと思つたですね。

十年を回顧して

出席者（右から 曽所順）

司会・久保田副組合長
宮浦　野方支部長
本所　塚元支部長
港務　山下支部長
製作　島田支部長
三川　谷端支部長

明日の希望と生きるために働くもの同志が生活を守るため結集して労働組合をつくり、混乱と敗戦の中から闘いを続けて来て早くも十年になつた。「十年一と昔」とよく人はいう、しかし今日までの十年は半落時の百年に比すべき十年であつた。自分の生活を守るために、また民主々義を守るために、そして平和を守るためには同じ職場、同じ階級、同じ産業の働くものが一切を超えての団結と統一によつて大会禁止がとれて活動が活発になつたですネ（笑声）無事にピケが解除になりみるとき幾多の想い出が去来しますが、組合の揺らん期ともいらべき組合創立当時については歴代組合長座談会で述べてありますので、鹿和条約締結以後の組合運動の推進過程を中心に六十三日のスト、炭婦協結成、一二三日の首切反対闘争など、いまだに生々しい想い出が脳裡に刻まれていますが、本日はこれを想い起して、思い切り放談して下さい。では最初は六十三日のストから入りましようか。

野方　とにかく保安要員総引上げの指令が出て、会社も緊張してこの対策を講じてるし組合も緊張した。いよいよ夕方からピケを張ることになつたが、はじめてのピケでどういう風に組んでよいか判らないで逃いましたね。

一応割振りして部署についてもらい、まわつてみたが、当日は寒くて寒冒の方では二かたまりになりたむろし恰好だけはノンキそうだが、みんな緊張していた。寒冒でも不安そうな顔をみんなしていた。

ピケの最後ごろ、会社は地ならしローラを持つて来るというので私は全員を反対に向けピケを張らせローラの来る方に私が坐りこんだまさかひき殺しはすまいと思つたが、若し本当にローラが来たらどうしようもないとは思つたが、集団社宅の大割位は集つたと思つたですね。

塚元　大体あのとき考えてみると五千人である。

闘いに敗れた三鉱は、翌々年新入炭鉱を買い、二年後鯰田炭鉱、そして飯塚と筑豊沿線の炭鉱を手に入れ、ここに三井対三鉱の石炭界におけるシーソーゲームが始まつたのである。

その後、住友、明治、と吉河石炭界の戦線異状ありというところまで来たが、資本家が他資本を圧迫して闘いに勝つため、帝国重労働と低賃金でシワよせは一切われわれ労働者の頭上にのみおいかぶさつていたのである。

経営者また資本家はこれを「石炭界の宿命である」との一言で簡単に片付ける。

然し片付けられたわれわれは一体どうなるかは火を見るより明かであり、炭労初代委員長で今簡鹿炭鉱の保安係をやつて居られる戸藤戸雄さんが言られた当時は二十六万名の炭労組合員が、二代目上砂川の三井出身の田中章さん時代は二十四万名になつて、四年前私が伊東大会でバトンを引き継いだ時であるが現在はなんと二十万名足らずである。

浦野支部長

明日の道もけわしい

三鉱労組結成十周年に贈る

炭労中央執行委員長　阿部竹松

明日の希望と生きるために働くもの同志が生活を守るため結集して労働組合をつくり、混乱と敗戦の中から闘いを続けて来て早くも十年になつた。「十年一と昔」とよく人はいう、しかし今日までの十年は半落時の百年に比すべき十年であつた。自分の生活を守るために、また民主々義を守るために、そして平和を守るためには同じ職場、同じ階級、同じ産業の働くものが一切を超えての団結と統一によつて大会禁止がとれて活動が活発になつたですネ（笑声）無事にピケが解除になりみるとき幾多の想い出が去来しますが、組合の揺らん期ともいらべき組合創立当時については歴代組合長座談会で述べてありますので、鹿和条約締結以後の組合運動の推進過程を中心に六十三日のスト、炭婦協結成、一二三日の首切反対闘争など、いまだに生々しい想い出が脳裡に刻まれていますが、本日はこれを想い起して、思い切り放談して下さい。では最初は六十三日のストから入りましようか。

野方　とにかく保安要員総引上げの指令が出て、会社も緊張してこの対策を講じてるし組合も緊張した。いよいよ夕方からピケを張ることになつたが、はじめてのピケでどういう風に組んでよいか判らないで逃いましたね。

一応割振りして部署についてもらい、まわつてみたが、当日は寒くて寒冒の方では二かたまりになりたむろし恰好だけはノンキそうだが、みんな緊張していた。寒冒でも不安そうな顔をみんなしていた。

ピケの最後ごろ、会社は地ならしローラを持つて来るというので私は全員を反対に向けピケを張らせローラの来る方に私が坐りこんだまさかひき殺しはすまいと思つたが、若し本当にローラが来たらどうしようもないとは思つたが、集団社宅の大割位は集つたと思つたですね。

塚元　大体あのとき考えてみると五千人である。

闘いに敗れた三鉱は、翌々年新入炭鉱を買い、二年後鯰田炭鉱、そして飯塚と筑豊沿線の炭鉱を手に入れ、ここに三井対三鉱の石炭界におけるシーソーゲームが始まつたのである。

その後、住友、明治、と吉河石炭界の戦線異状ありというところまで来たが、資本家が他資本を圧迫して闘いに勝つため、帝国重労働と低賃金でシワよせは一切われわれ労働者の頭上にのみおいかぶさつていたのである。

経営者また資本家はこれを「石炭界の宿命である」との一言で簡単に片付ける。

然し片付けられたわれわれは一体どうなるかは火を見るより明かであり、炭労初代委員長で今簡鹿炭鉱の保安係をやつて居られる戸藤戸雄さんが言られた当時は二十六万名の炭労組合員が、二代目上砂川の三井出身の田中章さん時代は二十四万名になつて、四年前私が伊東大会でバトンを引き継いだ時であるが現在はなんと二十万名足らずである。